

所属・資格 社会福祉学科・教授

申請者氏名 太田 由加里

研究課題		学童期の子どもたちの生活問題の把握と解決策 - スクールソーシャルワークの視点から日本とフィンランドを比較する -
報告の概要	研究目的 および 研究概要	学童期の子どもたちは、いじめや不登校に悩んだり、家族の貧困により生活上の影響を受けることも少なくない。従来、これらの問題は教育の視点から把握され、解決の方法が模索されてきた。しかし本研究では、子どもの生活や教育上の困難をスクールソーシャルワークの視点から把握し、その解決策を探ることが目的である。さらに、フィンランドのスクールソーシャルワークの実際と比較し、その方法を今後の日本の方向性の示唆としたい。フィンランドは子育て期からの切れ目ない支援であるネウボラ（相談・援助の場）を地域のなかで根づかせ、その方法が今、日本の子育て支援のモデルとなっている。その方法は、ソーシャルワークの視点に基づいた援助方法によるところが大きい。学校場面でもスクールソーシャルワークの役割が活かされており、その実際を学ぶことにより、日本の示唆とすることを研究概要とする。
	研究の結果	日本とフィンランドの共通の課題として、子どもたちの不登校やいじめ、無断欠席などがあげられることがわかった。またフィンランドでは寒くて長い冬など、厳しい気候に起因するうつ傾向や子どもの飲酒、交通事故などフィンランド独自の課題を抱えていることも明らかになった。さらに保護者のアルコール依存によるDVや生活習慣の不安定など家族が要因となる子どもの成長発達上のリスクもわかった。それらフィンランド独自の課題に対して、事例に基づいたデータを蓄積して、従来にない新たな視点でプロジェクト (KiVa プログラム) を展開し、それが成果を上げていることを把握した。
	研究の考察・反省	学童期の子どもたちの生活問題については、研究結果からフィンランドは、「いじめ予防対策 KiVa」という独自のプログラムを開発していること、今や国内の小学校の90%がそれを活用して成果を上げていること、またEU圏内でもそのプログラムが活用されていることなどを明らかにした。今後はそのKiVaの内容や成果を上げている方法などを知ることにより、日本でのいじめ予防対策に資することが出来ればと考える。さらに学童期だけでなく、EU圏内で若者支援のリーダーシップを担っているフィンランドの支援内容などを把握していくことが今後の課題である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>2018年度田園調布学園大学大学院シンポジウム『子育て支援の新たな戦略－北欧型か北米型か』発表テーマ：「フィンランド・ネウボラにみる子どもと家族の支援」 年月日：2018年8月18日 場所：田園調布学園大学</p> <p>2018年度田園調布学園大学大学院シンポジウム報告書 統一テーマ：『子育て支援の新たな戦略－北欧型か北米型か』 報告書テーマ：「フィンランド・ネウボラにみる子どもと家族の支援」 発行年月日：2019年3月31日 発行所：田園調布学園大学大学院</p>